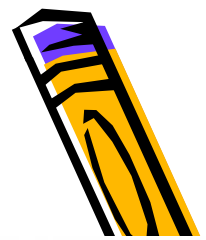




# 地域版ハザードマップについて

平成25年10月 南区役所

# ◆地域版ハザードマップって何？



「地域版ハザードマップ」とは、行政が配布している洪水・高潮ハザードマップ等をもとに、過去の災害情報や地域で想定される危険箇所、避難場所等を自分たちの手でマップに記したものです。

標高

まち歩きで把握した避難の際の危険箇所

水に浸かりやすい場所・水の流れ

安全と思われる避難経路

市指定一時避難場所

危険を回避するため、一時的に身を守るために市が指定した避難場所です。市民館、市立の学校施設、都市(近隣)公園及び県・私立高校等のグラウンド等を指定しています。

地域指定一時避難場所

地域で共有したい情報

市が指定した一時避難場所以外で、災害の発生又は恐れがある場合に危険を回避するため、一時的に避難する場所として地域が指定した地域の公民館やコミュニティセンターなどを指しています。



地域を災害の視点から見つめ直すきっかけにしましょう！

# ◆ どうして地域版ハザードマップを作るのか？

行政が配布する  
各種ハザードマップ

危険箇所や被害が予想される区域等を知ることができるが、過去の災害から想定される最大被害を表示しているため、その被害に至るまでの予兆を知ることが出来ない。

地域版ハザードマップを作ると・・・

- ◆ 最大被害になるまでの避難場所
- ◆ 避難経路の確認
- ◆ 避難行動
- ◆ 注意すること 等 災害時の対処法などのヒントをまとめることができる

災害時の地域の特性が分かり、  
災害の種類によって異なる取るべき行動を  
理解できます  
それが減災につながります！



# ◆地域版ハザードマップの作り方



## 〈役割分担〉

**リーダー**  
(自治会及び自主防災クラブ等役員)

- ◆グループ討議(ワークショップ)、まち歩き企画・準備・運営
- ◆市、アドバイザーへの支援要請

マップづくりの  
主役は  
地域住民

**アドバイザー**

- ◆グループ討議での意見引き出し
- ◆まち歩き協力  
(防災士会、隊友会等がボランティアで協力)

協力

**熊本市**

- ◆基礎図(白地図)やグループ討議に必要な資機材の提供
- ◆防災計画や防災情報等の入手



マップ作成にあたっては、このような役割分担でグループ討議(ワークショップ)を開催し、作業を行います。出来上がったマップは一町内自治会あたり500枚まで、市で印刷します

# ◆地域版ハザードマップの作り方

〈作成の流れ〉

準備

自治会及び自主防災クラブ等役員で・・・

企画会議

手順①

参加者全員で・・・

勉強会・まち歩き

手順②

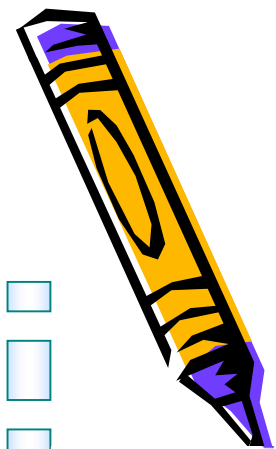
グループごとに・・・

ハザードマップの作成

手順③

全体で・・・

マップの仕上げ



# ◆南区の地域版ハザードマップ進捗状況



南区管内の自治会等数 162

(H25.9.30現在)



■ ハザードマップ申請書提出数 42

・企画会議が終了した自治会 17

(このうちワークショップまで終了した自治会 7)

・企画会議を予定している自治会 25

